

ISISの結成へのサウジアラビアの関わり方

(イランラジオ日本語放送 2015.03.09 17:10)

前回の番組では、ISISがどのように結成され、後にどのようにしてアルカイダと決別したのかについてお話ししました。

今回の番組では、ISISの結成へのサウジアラビアの関わり方について見ていくことにいたしましょう。

サウジアラビアを支配するワッハーブ派は、この30年間、イスラム世界でのタクフィール主義グループの強化に大きく関わってきました。ワッハーブ派は、非常に視野の狭い保守的な思想を有しており、暴力的な方法を用います。タクフィール思想を持つ組織強化へのワッハーブ派の関与は、イスラム諸国、それも、経済や文化面での貧困に苦しむ国々で、より多く見られます。アフガニスタン、パキスタン、イエメン、その他、アフリカの貧しいイスラム諸国は、サウジアラビア政府にとって、ワッハーブ派の狭量で過激な思想を広める学校や教育機関を設置するのに格好の標的でした。

一方で、ワッハーブ派は、トルコのような、良好な経済状況を持つイスラム諸国や、非イスラム諸国での少数派のイスラム教徒社会でも積極的に活動しています。彼らはこうした社会のイスラム教徒が、正しいイスラムを知らないことを最大限に利用し、タクフィール思想を広めているのです。

ワッハーブ派は初め、イギリスの支援を得てアラビア半島に広がり、イギリス、後にアメリカの地域における政策や利益に沿って行動していました。ワッハーブ派は、イスラムの預言者ムハンマドの伝統を復活させ、先人たちの価値観に回帰すると言って、様々な問題を提起していますが、それらは聖典コーランや預言者ムハンマドの教えとは何の関係もありません。彼らは、イスラムの真の戒律に反する、ワッハーブ派の偏った思想を否定する他の宗派の信者たちを不信心者と見なします。しかし、サウジアラビアのワッハーブ派のイスラム法学者・ムフティは、パレスチナのイスラム領土が占領され、西側の植民地主義者、特にアメリカが、サウジアラビアや他のイスラム諸国に駐留していることには沈黙を守っています。

実際、タクフィール主義とは、サウジアラビアにとっての武器になっており、それによって彼らは、イランのイスラム革命後、地域において危うくなった自らの立場を強化しようとしています。イラクでサッダームフセインが拡張主義政策によって力を握っていた頃、彼らはある程度、イスラム革命が地域に浸透するのを防げると考えていました。と同時に、その頃彼らは、アフガニスタンのアルカイダやタリバン、パキスタンの一部のタクフィール主義グループのことも考慮に入れていました。パキスタンのペシャワールに、タリバンやアルカイダのためのワッハーブ主義の学校を作り、そこから、アルカイダのテロリストたちを、世界各地、特にイスラム諸国に送り出し、こうして地域でのサウジアラビアの影響力を拡大しようとしていました。そしてこのようなサウジアラビアの政策は、アメリカ、イギリス、パキスタンの治安機関の全面的な支援を受けて行われていました。

アメリカは、サウジアラビアとの関係を非常に重視しています。9.11事件後、この事件のハイジ

ジャック犯の 19 人全員がサウジアラビア国籍の保有者であったにも拘わらず、この国の王子数名を、アメリカから専用機で逃がし、サウジアラビアとの関係がこの事件によって揺らぐのを防ごうとしました。

2003 年のアメリカのイラク侵攻とサッダームフセイン政権の崩壊により、サウジアラビアは、イラクが真のイスラム陣営の同盟国となり、シオニストやワッハーブ派のタクフィール主義思想を脅かす存在になるのではないかという懸念を抱きました。アメリカがイラクを占領してからしばらくのち、イラクの人々は、サウジアラビアから直接支援を受けたタクフィール主義のテログループの大規模な攻撃を受けました。そうしたグループの一つが、後に I S I S と名乗るようになったグループでした。何人ものイラク人が、連日、テロリストの攻撃の犠牲になりました。

ここで注目に値するのは、この攻撃が、アメリカ兵 10 万人近くがイラクに駐留している中で行われたことです。この攻撃の中で、アメリカ兵が死亡したこともありましたが、アメリカ兵の死者数は、テロ作戦で、日々、殺害されるイラク人の男女や子供の数に比べれば、注目に値する数ではありませんでした。

2011 年にチュニジアやその他の独裁国で始まったイスラムの目覚めの運動は、自らをアラブ諸国の長兄と考えるサウジアラビアを強く懸念させました。サウジアラビアの指導部は、オイルマネーによって、可能な限り、この運動を阻止しようと努めました。タクフィール主義の動きの拡大、シーア派教徒の殺害、イスラムの宗教施設の破壊、これらは、イスラムの目覚めの運動を逸脱させ、公正を追求し、人間を形成する至高なるイスラムのイメージを壊すことで、人々の運動を阻止するために行われました。

サウジアラビアとその西側の同盟国、シオニスト政権イスラエルが敵対している国の一つが、シリアです。シリアは、シオニスト政権との闘争の第一線にいます。サウジアラビア、カタール、トルコ、西側諸国の政治、資金、軍事面での支援を受け、タクフィール主義のテログループが組織化され、シリアへと送られました。イラクからシリアへと活動を広げた組織の一つが、I S I S でした。I S I S は、サウジアラビアの支援なくしては、最新の軍備を手に入れることも、シリアとイラクの大部分を占領することも不可能でした。彼らはイラクの分離、そしてイラクとシリアの民主政権の弱体化を狙っています。シリアとイラクの占領地域で、イスラム・カリフ制の樹立を宣言したのも、それを目的としています。

サウジアラビア政府は、地域での立場を維持し、預言者ムハンマドの純粋なイスラムの教えや思想が広まるのを防ぐための手段を、一つしか有していません。それは、タクフィール主義のテログループを強化するために、オイルマネーを使用することです。I S I S は、サウジアラビアのワッハーブ派の産物です。I S I S がシリアやイラクで占領している地域の学校では、サウジアラビアの教科書が使われています。これは、I S I S が、サウジアラビアのワッハーブ派の逸脱した思想に依存していることの、ほんの小さな一例に過ぎません。

では、サウジアラビア政府が、世界における人権や自由の擁護を謳う西側諸国の政治的、軍事的な支援を受けずに、地域でこのような混乱を作り出すことは果たして可能なのでしょうか？

サウジアラビアの統治体制は、中世に遡ります。この国の人々は、最低限の市民権さえ有していません。2015年の現在、そのような国が単独で、地域に混乱や情勢不安を作り出し、世界最大のテログループを結成するきっかけとなることなどできるのでしょうか？サウジアラビアの政治体制は、数千人の皇太子のいるサウード家という一族によって構成されています。なぜそのような体制が、博愛主義や民主主義を謳うアメリカやヨーロッパの緊密な同盟国となり、西側から最新の兵器を供与されているのでしょうか？それは、サウジアラビアが、中東という戦略的な地域で、アメリカやヨーロッパの不当な利益を守る存在であるからです。I S I Sとサウジアラビア、そしてサウジアラビアと西側諸国のこのような結びつきを見てもなお、これらの政府による対I S I S有志連合の結成という政策を信じることができるのでしょうか？

<http://bit.ly/186Ar8p>

トルコのI S I Sへの大規模な支援

(イランラジオ日本語放送 2015.03.15 21:59)

これまでの番組では、テロ組織I S I Sの思想の基盤、その誕生の経緯、サウジアラビアの関与についてお話ししました。

サウジアラビアと共に、I S I Sの誕生と強化に強く関わってきた国の一つが、トルコです。今夜のこの時間は、I S I Sの誕生と財政基盤の強化、人材確保に、トルコ政府がどのような役割を果たしてきたのかについてお話しすることにいたしましょう。

トルコは、チュニジア、エジプト、リビアといった独裁国で、イスラムの目覚めの運動が起こった後、それを導く役目を果たそうとしました。当時のトルコのエルドアン首相は、エジプトでムバラク政権が崩壊した直後、カイロを訪問し、反体制派の人々に対し、トルコの統治体制を、今後の政体の模範にするよう求めました。エルドアン氏率いるトルコの公正発展党は、ムスリム同胞団と近いため、彼らが議会で過半数を獲得し、モルシ大統領が選出された後、ムスリム同胞団と非常に密接な結びつきを築き上げました。

エルドアン政権はまた、シリアでも、オスマン帝国の復活とトルコの影響力拡大に向け、その野望を推し進めるために、人々の抗議を利用しようとしていました。トルコ政府は、シリアの改革に向けた運動を、アサド政権を転覆させるための運動に変えようとしていました。その中で、それまで名前も聞かれなかったような反体制派グループが、突如、現われました。こうして少しずつ、シリアの反体制派グループと共に、様々な国の人々で構成されるタクフィール主義のグループが誕生していきました。これらのグループの活動の拠点はシリア国内の各地に広がり、それが反体制派グループの活動の場を狭めました。そのため、かつて、政府を樹立しようとしていたこれらのグループは、タクフィール主義のテログループと深く対立したために、シリア国内に、たった一つの事務所さえ、設置することもできなくなりました。

この中で、トルコ政府は、シリアの反体制派とタクフィール主義のテログループの双方を支援しました。シリアの反体制派へのトルコ政府の政治や資金面での支援は堂々に行われ、イスタンブールでは、反体制派の連帯と統一を目指す会合が開かれました。その会合は何の結論にも至らず、どれも、政治的な深い対立のために決裂しました。なぜなら彼らは、シリアで混乱が始まった当初から、シリア国民のことなど考えておらず、ただ、自分たちの政治的、経済的な利益と権力を求めていたからです。

一方で、I S I Sやヌスラ戦線といったタクフィール主義のテログループへのトルコの支援は、特別な形で行われ、トルコはそれを必死に隠そうとしました。とはいえ、それは有識者の目には明らかでした。アメリカが、I S I Sへの支援継続についてトルコと意見を違えたとき、アメリカのバイデン副大統領は、トルコ、サウジアラビア、アラブ首長国連邦がI S I Sを支援していることを明らかにしました。

タクフィール主義グループには、アラブ諸国、コーカサス地方、ヨーロッパ諸国を中心に、世界の86カ国の人々が参加しています。彼らはトルコに入国した後、この国の拠点でみっちり軍事訓練を受け、その上でシリアに送られます。これについては多くの映像や文書が公表されていますが、中でも最も重要なのは、バイデン副大統領の発言でしょう。

ドイツの国営テレビも少し前に、トルコのイスタンブールのある通りに、I S I Sの事務所が設置され、そこでI S I Sのための資金集めや、シリアとイラクに派遣するための傭兵の勧誘が公然と行われていることを明らかにしました。この報道によれば、トルコ国内には、I S I Sのメンバーを訓練するための複数の拠点が存在するという事です。

トルコ南東部にあるキャンプからは、キリスト教徒が多く住むシリア国境の町を攻撃するために、戦闘員が送られました。また南部にあるキャンプは、トルコにある最大のアメリカ空軍基地の近くに位置しています。興味深いのは、これらのキャンプが、イラクから中央アジアへと伸びるガスのパイプラインを結ぶ地点に非常に近いということです。このパイプラインは、トルコの地中海ジェイハン港へと伸びています。

CNNは、昨年暮れに、トルコを経由してシリア国境に入る外国人戦闘員の作戦の様子を再現した映像を放送しました。この中では、モーリタニア、リビア、エジプト、サウジアラビア、イギリスの出身の戦士たちが、トルコのハタイ空港からシリアの国境近くに移送されている様子が映し出されています。その中で、トルコ人のジャーナリストたちは、トルコとシリアの国境が、テロリストが容易に移動できるルートになっていることを明らかにしました。彼らは、トルコの情報機関がテロリストと協力していると強調しています。

I S I Sは、世界で最も規模が大きく、豊かな資金を持ったテログループですが、トルコの支援なしでは、そのような地位に到達することはありませんでした。I S I Sは、数多くの資金源を有しています。サウジアラビア、カタール、アラブ首長国連邦が、I S I Sへの資金援助国です。この他、I S I Sは、シリアやイラクの占領下にある地域の石油を売却して資金を確保しています。I S I Sは、シリアやイラクから強奪した石油を密売し、それをトルコに移送して闇市場で売り、

莫大な資金を稼いでいます。

トルコと、I S I Sの援助者であるサウジアラビアの王子の一人との関係は、トルコのI S I Sへの全面的な支援を物語っています。トルコ政府は、この関係を隠そうとしていますが、それはトルコの各紙面で伝えられています。

サウジアラビアの資産家であるヤシン・カディは、世界のテログループの支援者の一人として知られています。2001年のアメリカ同時多発テロ事件後、彼とその他数人の名前が、国際的なテロリストのリストに入れられ、多くの国が、彼の入国の禁止を発表しました。トルコも、そうした国の一つでした。しかし、今年の初め、トルコのメディアは、ヤシン・カディとエルドアン大統領の会談、そして彼とエルドアン大統領の息子との長時間にわたる会談の様相を伝えました。ヤシン・カディは、2012年に四度、トルコを訪問し、エルドアン氏は、イスタンブール空港の監視カメラのすべてを切った上で、自ら空港で彼を出迎えました。エルドアン氏は、司法調査の中で、ヤシン・カディがテロリストであることへの言及を避けながら、次のように語っています。「私は自分を信じているのと同じくらい、ヤシン・カディ氏に信頼を寄せている。彼は善良な人間だ」

トルコ発行の新聞は、次のように記しています。「ヤシン・カディは、12回、トルコを訪問し、そのうち7回は、エルドアン氏の協力によって行われた。なぜならカディの名前は、トルコの空港で、入国禁止者のテロリストとして登録されているからだ」この新聞は、カディとエルドアン氏、および、トルコの情報機関ハカン・フィダンの長官は、「トルコの警察が、カディを追っていた頃、彼はエルドアン氏と会談していた」と強調しています。

トルコとI S I Sの緊密な協力を示す証拠は数多く存在します。トルコの政府関係者は、I S I Sなど、シリアやイラクで活動するテログループを支援すれば、地域におけるトルコの地位が向上すると考えています。これは、西側同様、最終的に、これらのテログループが、彼ら自身の安全を脅かす存在となる政策です。トルコもまた、その例外ではないのです。

<http://bit.ly/1GTzShm>